

平成29年度第1回安城市総合教育会議録

日 時 平成29年6月22日(木) 午後2時から午後3時半

場 所 教育センター2階 会議室

出席者 市長 神谷 学

教育委員会 船尾 恭代 委員長

加藤 滋伸 委員長職務代理者

近藤 倉生 委員

鳥居 恵子 委員

杉山 春記 教育長

出席した職員 永田博充 企画部長

鳥居 純 行革・政策監

近藤芳永 教育振興部長

大見 智 生涯学習部長

神谷澄男 企画情報課長

神谷 徹 総務課長

上原就久 学校教育課長

野畑 伸 スポーツ課長

深谷英衛 企画情報課課長補佐

筒井良廣 総務課課長補佐

宇波聖香 企画政策課主事

傍聴者 なし

開 会 午後2時

日 程

第1 開会

第2 市民憲章の唱和

(市民憲章 唱和)

第3 あいさつ(要旨)

神谷市長：6月1日アンフォーレが無事グランドオープンした。入館者数は、当初の予想よりもやや多く、順調に推移している。当初の4日間のイベント期間は別として、最近の状況は、イベントのある週末で、概ね1万人前後、イベントのない週末は6000人前後、平日は3000人前後である。よい集いの場がまちなかに設けられてよかった。

公共施設は、どこも同じだが、初年度は物珍しさもあり多くの人が集まってくるが、2年目以降は来館者が落ち込むのが常である。今から舞い上がってしまうことなく、来年度以降を見据えて、来館者にいかに満足してもらい、リピ

ーターとなってもらうかを考えた運営を進めなければならないと思っている。
船尾委員長：今日の議題に関しては、教職員の多忙に関する取組みということで、西三河においてもいろんなところで問題になっていると思う。何とかしなければいけない問題であることというのは確かなので、そこについての話し合いがあればいいと思う。

東京オリンピック・パラリンピックに関しては、私たちも楽しみで、私たちができることで、子どもたちが気分よく参加できるようなことがあればいいと考えている。

第4 議事

議題（1）「教職員の多忙に対する取組みについて」

学校教育課長説明する。

神谷市長：加藤委員は、高校の現場がかなり長かったと思うので、アドバイスをいただきたい。

加藤委員：具体的なデータが高校は出ていないのでわからないが、小中学校の先生は、高校の先生より学校に遅くまで残っており、オーバーワーク気味になっているのではないかと感じている。

神谷市長：学校の教育現場の空気感が分からないが、早く帰るとあの先生は、面倒見がよくないとか、遅くまで頑張って子どもたちを指導するとあの先生はいい先生だとか、そういった親の声が聞こえてくるのか。本当は早く帰りたいけど、もっと面倒をみてあげようかという感じになってしまうのか。何が学校に長くいる要因になっているのか。

鳥居委員は、親の代表として、学校に対して思うことはあるか。

鳥居委員：部活動の適正ということは、私の子どもを見ているとそれはきちっと守られていると思う。

親も、いろいろな考えを持っている方がいる。もっと部活動をやらせたいと思っている方もいるし、この程度でよしとする方もいる。学校外のクラブチームに所属して、もっと練習するという子もいる。

中学生は、部活動で、先輩後輩との関係とか一つの目標に向かって努力するという過程とかを学んで欲しいので、ある程度の部活動は、続けてほしい。外部コーチの話も出るが、顧問の先生とコーチがきちんとコミュニケーションがとれて、指導方針とか練習内容とか、統一されたものでないとその間に立つ子どもたちが困ってしまうことがある。先生たちの負担を減らすために外部コー

チ導入の話があるが、簡単にはいかないと思う。

神谷市長：愛知県内で外部コーチに部活の一定部分を任せている学校や市町村はあるか。

杉山教育長：名古屋市が導入をしていると聞いている。

近藤委員：オーバーワークの問題は、産業医的な考え方からいうと、教職員の時間外勤務が月80時間以上というのは、喫緊の課題だと思う。これは国全体で取り組むことであって、別に安城市だけの問題ではない。いろんな取り組みをしようと思うが、なぜ忙しくなっているのか分析して、もう少し合理的に業務がなされれば、時間は減るのではないか。

もう1点は、多くの先生たちを煩わせていることは、事務処理が多いことだと思う。先生がやらなければいけない事務処理なのか、そうではなくてもやれるものなのか、それを識別して、学校の事務職員のマンパワーを増やしたりして、事務量を減らす方法もあるのではないかという気がする。いろんな側面から時間削減を図り、月80時間以内にするということを目指すべきではないか。

杉山教育長：職員室の様子ということで、関連して話すと、先生は授業が勝負であると言われている。1時間の授業を大切に扱っていこうという気持ちに今も昔も変わりがない。1時間の授業をつくり上げるときにいろんなことを考え、熱心な方はそれだけで随分時間をかけて、頭を悩ませている。それが、おのずとその先生の力量向上につながっていくことになるが、そういうところでも時間を使っているなどと思う。長時間在校を肯定するわけではないが、そういう側面もあるから、一概に何時に帰れとなかなかできない側面があることは実感している。

神谷市長：先生に限らず、どんな仕事でもトコトンこだわれば、準備とか後の手当てとか、時間が長くなってしまうことはある。

船尾委員長：教育というのは、子ども一人一人が違うという点で、製造業とは全く違うのだろうと思う。そのために準備も必要だったり、あるいは扱う教材によっても違ったりということが、先生の大変なところだと思う。

現場の先生からよく書類をつくるのが大変だということを知っている。そう考えると、少し前のドラマにあったように、「医師免許が必要じゃない仕事はやりません。」みたいな、教員免許がないとできない仕事だけを先生が行えば、先生の仕事は少なくなるのではないかと思う。事務処理等の教員免許がなくてもできることは、補助員がやればよいと思う。先生を増やすのではなくて、教員免許がなくてもできる仕事を誰かほかの人にしてもらおうシステムがあると、人間に対して教育をするという先生として必要な本来の部分に関しては時間をとってほしいと思う。

神谷市長：これまで学校の教育現場でスクールヘルパーが必要だとか、補助員

がもっと欲しいとか、校務ソフトを入れて合理化を図りたいとか、いろんな要望が出てきて、議論しながら対応してきたつもりだが、学校の実態が、数字で見えていなかったのも、教育委員会の要望も、例えば、財政的に厳しい時期だから、一律何%カットしようとか、一般的な事務経費の尺度で教育委員会の予算も抑えてきてしまっていた部分があった。先生の業務というのは、一般的な行政の仕事と同じように取り扱うのは、まずかったのではないかと今思っている。

これから、先生の多忙を解消していくためには、ある一定のマンパワーを、学校現場に送るしかないのか、またどういう人を手当てすることが効果的なのかということを考えて、最低このぐらい入れると、こういう部分で、学校も先生も助かるというものを出示してもらいたい。何カ年でどこまで充実させるかという見通しを立てて、計画を作ってもらおうと支援がしやすい。

教員にしかできないことを、先生が行い、その他のことはできるだけ他の人がサポートするような形に近づけていきたいと思う。そのようなデータ等があれば示してほしい。

杉山教育長：教員の多忙化の解消については喫緊の課題であると思っている。部活動の問題も含めて、安城市教育研究会の研究のあり方とか市教委が主催する研修のあり方について、総合的にこの多忙化の解消という観点で見直しを図っていく時期にきていると思う。また教育委員の皆様方と相談をしながら、一歩でも前に出られるように努力してまいりたい。

神谷市長：フィンランドのICTの教育の視察で小学校に行ったが、授業は昼までで、昼を過ぎたら家に帰ってしまう先生がほとんどだと聞いた。また、先生になるには4年制大学を出ればなれるわけではなく、最低でも修士をとらないと教員採用は難しいという話も聞いた。非常に質の高い向上心のある先生が、半日で授業を終わって、次の授業の準備をしようと思えば、時間は潤沢に与えられている。次の日の授業は、かなり質の高い授業ができていないかと想像される。

同じくICTの関係で、韓国の中学校の図書館を視察した際、平日の早い時間にもかかわらず、子どもたちは校内にいなかった。韓国では、部活みたいな感じで校庭とか体育館でスポーツをやっていた。私たちは日本だと今の教育環境が当たり前だと思い込んでしまっているが、国が違えば学校の役割というのは、随分と様変わりをして、学校の先生も日本ほど、拘束されていないように感じた。どこの国の教育が一番いいのかはわからないが、先生だけでなく、社会全体で、学校はどういう役割を果たすべきなのかということをも改めて考えないといけない時期に差しかかっている気がする。

委員長はドイツの学校教育に明るいと思うがどうか。

船尾委員長：そんなに明るいわけではないが、ドイツでもお昼で学校が終わる。

スポーツをやりたい子は地域のクラブとかに行くようだ。いわゆる部活というシステムは、多分ドイツにはないと思う。それはそれでいいと思う。レスリングの金メダリストも中学ではなく、クラブでやっている。今話題になっている中学生の将棋の子も多分、学校ではやっていない。それを考えると確かに今言われているみたいに学校が全部を補わなくてもいいと思う。ただ、親はやっぱり期待する。

神谷市長：今日、結論は出ないが、学校の先生が大変だと言われても、どう大変なのかは分かりづらいので、先ほど示されたようなデータをしっかり分析してほしい。その上で、どこの部に1番苦勞があるのかがわかってくれば、どういう手当をすればいいのかが見えてくる。定期的に、情報を提供してほしい。

議題（2）「東京オリンピック・パラリンピックの開催機運を生かした取組みについて」

スポーツ課長説明する。

神谷市長：パブリックビューイングは、今までやろうと思ってもなかなか場所がなかったが、今はアンフォーレを使えば、大型液晶ビジョンの前やホールで、みんなで応援できると思う。応援をするためにも、安城市内の選手やチームのことを、市民にできるだけ親しんでもらえるように、色々やっていけないといけない。

スポーツ課長：それがホームチームサポーター事業の役割だと思う。今年は応援ツアーということで、4月のデンソーブライトペガサスの開幕戦の時に、バスと現地を含めて100人の市民に、応援に行っていた。やっぱり生で試合を観ると感動がある。

神谷市長：国際交流のチャンスの側面もあるので、加藤委員も、もし何かアドバイスがあれば教えて欲しい。

加藤委員：安城市内にそういう候補になりそうな人たちが、何人かみえるということだけでも、とてもうれしい。少しでも機運を盛り上げていくという意味では、いろんなところで広報などで紹介をしてほしい。

神谷市長：どこのチームが安城市でキャンプをしてくれるかは、まだ全然わからない。

姉妹都市があるのは、アメリカとオーストラリアとデンマークなので、これ

らの国から来てくれればうれしい。ただ、それに限らず、少しでも興味を持ってくれる国があれば、お受けして、できるだけ対応してあげたい。

議題（３）意見交換

神谷市長：アンフォーレの状況は、教育委員会に多少伝わってきているか。

船尾委員長：アンフォーレが開いてから、教育委員会がまだない。オープンする前は、中も見せていただいて進捗状況も説明していただいた。

神谷市長：私も時間があると、よく見に行くが、子どもたちが結構使っている。

皆さんもごらんいただいて、またいろんなご意見をいただきたい。

近藤委員：オリンピック・パラリンピックのキャンプに関しては、安城市もセールスポイントを何にするかを考えて誘致する必要があると思う。

船尾委員長：パラリンピックの“ボッチャ”という競技で何か応援できることがないかなと思っている。

加藤委員：今日、ちょっと話しにくいと思ったのは、私自身が教員で管理職として一生懸命働いてもらっていた立場であったからだ。先生たちの健康も大事だし、先生たちが子どもたちのために一生懸命やってみえるその努力も考えてあげながら、どういう方向で軽減ができるか、これから考えていただければと思う。

鳥居委員：今回のこの会議がきっかけになって色々と見直されて、少しでも先生の働く環境がよくなればいいと思う。

第5 その他

次回の開催予定

平成30年1月18日（木）午後2時 予定

閉 会 午後3時半